授業 科目	解剖学	担当 教員	外部講師 藤田 育生		単位数	2	時期	1 年次 4 月～
					時間数	45		
目的：人体とは何かを理解する。 目標：1) 人体の構造を理解する。 2) 人体の基本単位である細胞・組織などの構造と機能について理解する。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員		
1	解剖学総論	講義全体の説明、組織学総論			講義	藤田		
2	解剖学用語	体位、位置関係、断面、関節運動			講義			
3	骨学	総論			講義			
4	骨学	頭蓋骨、脊柱			講義			
5	骨学	胸郭、上肢骨、下肢骨			講義			
6	筋学	総論			講義			
7	筋学	各論			講義			
8	神経学	総論、中枢神経			講義			
9	神経学	自律神経系			講義			
10	神経学	脊髄神経			講義			
11	神経学	脳神経 1			講義			
12	神経学	脳神経 2			講義			
13	脈管学	総論、血球			講義			
14	脈管学	心臓			講義			
15	脈管学	動脈系			講義			
16	脈管学	静脈系			講義			
17	脈管学	リンパ系、胎児循環			講義			
18	内臓学	呼吸器系			講義			
19	内臓学	消化器系			講義			
20	内臓学	消化器系、内分泌系			講義			
21	内臓学	泌尿器系、生殖器系			講義			
22	感覚器	皮膚、視覚、聴覚、味覚、嗅覚			講義			
23	試験 (1h)							
評価方法		筆記試験						
参考文献と資料		テキスト： 入門人体解剖学 (南江堂)						
事前準備や受講要件等								

授業 科目	生理学	担当 教員	外部講師 中村 英亮	単位数	2	時期	1年次 5月～
				時間数	45		
目的：生命の成り立ちを系統的に学ぶ。							
目標：1) 人体を構成する各器官の生理学的な機能を理解し、統合的に人体の機能を説明できるようになる。							
2) 各器官の生理学的な機能を理解し、人体の生命維持システムについて説明できるようになる。							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	生理学の基礎知識 1	はじめに、細胞の構造と機能 1 (細胞の構造)		講義	中村		
2	生理学の基礎知識 2	細胞の構造と機能 2 (エネルギーとタンパク質合成)		講義			
3	生理学の基礎知識 3	細胞の構造と機能 3 (細胞膜と染色体)		講義			
4	外部環境からの防御 1	血液とリンパ液 1 (組成・赤血球・白血球・血小板)		講義			
5	外部環境からの防御 2	血液とリンパ液 2 (血漿タンパク・凝固と線溶・血液型)		講義			
6	外部環境からの防御 3	皮膚・粘膜による防御、体温調節、疼痛		講義			
7	体の支持と運動	筋収縮のメカニズムと特徴		講義			
8	神経系 1	神経細胞の機能 (活動電位発生・シナプス伝導)		講義			
9	神経系 2	中枢神経・末梢神経の機能		講義			
10	神経系 3	脳の高次機能		講義			
11	感覚器	視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚		講義			
12	まとめ・試験 1	試験範囲：1回～11回まで		講義			
13	消化と吸収 1	口腔・食道・胃・小腸・大腸の機能		講義			
14	消化と吸収 2	膵臓・肝臓・胆嚢の機能		講義			
15	呼吸器	呼吸のメカニズム、ガス交換、神経性調節		講義			
16	循環器 1	心臓の拍出機能 (心電図も含む)		講義			
17	循環器 2	血液の循環調節		講義			
18	体液の調節 1	腎臓の構造と機能、体液の調節 (酸塩基平衡・電解質)		講義			
19	内臓機能の調節 1	自律神経による調節、内分泌系による調節		講義			
20	内臓機能の調節 2	全身の内分泌腺によるホルモン分泌と機能		講義			
21	内臓機能の調節 3	ホルモンによる調節の実際 (糖代謝、血圧など)		講義			
22	生殖・発生と老化	生殖器と生殖機能、発生と老化		講義			
23	試験 2 (1h)	試験範囲：13回～22回まで					
評価方法		筆記試験 (試験 1 : 45点、試験 2 : 45点) ・提出物 (10点) による総合評価					
参考文献と資料		テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 (1) (医学書院)					
事前準備や受講要件等		中間試験の日程は、授業の進捗によって変更することがあります。					

授業 科目	生化学	担当 教員	外部講師 土岐 信子	単位数	1	時期	1年次 4月～
				時間数	30		
<p>目的：生態の構成成分と構成機能を学ぶ。</p> <p>目標：1) 有機化合物を中心として人間の体を構成している物質について、その構造や性質を理解する。</p> <p>2) 人間の生体内における様々な反応とその役割を理解する。</p> <p>3) 遺伝子情報はどのようにして働くか理解する。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	生化学を学ぶにあたって	生体の化学の基礎、細胞の構造と機能		講義	土岐		
2	糖質・脂質	糖質・脂質の基礎、構造と役割		講義			
3	蛋白質・核酸	蛋白質・核酸の基礎、構造と役割		講義			
4	ビタミン	脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン各論		講義			
5	無機質・ミネラル	水と無機質の生理作用、無機質各論、ミネラル、ビタミン		講義			
6	水とホルモン	ホルモンの作用機序、ホルモン各論		講義			
7	酵素	酵素の特性、酵素と疾患、酵素阻害剤の医薬品応用		講義			
8	物質代謝 1	糖質代謝(解糖系、クエン酸回路、グリコーゲン合成など) 血糖値の調節		講義			
9	物質代謝 2	脂質代謝(脂肪酸分解、ケトン体合成、コレステロール合成と利用など)		講義			
10	物質代謝 3	蛋白質代謝(アミノ酸分解、尿素サイクル、各種窒素化合物の合成など)		講義			
11	ポルフィリン代謝と核酸代謝	ヘムの合成と分解、ビリルビン代謝、プリン代謝(痛風など)		講義			
12	遺伝情報とその発現 1	遺伝の基礎、DNAの複製、DNAの損傷と修復、遺伝子変異		講義			
13	遺伝子情報とその発現 2	転写の概要、翻訳の概要、翻訳後修飾		講義			
14	病気と生化学	がん(がん遺伝子、抑制遺伝子)代謝異常と疾患、活性酵素		講義			
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 生化学 人体の構造と機能 (2) (医学書院)					
事前準備や受講要件等							

授業 科目	看護人間工学	担当 教員	外部講師 金 銀 映	単位数	1	時期	1 年次 4 月～
				時間数	15		
<p>目的：人間の行動を物理的に捉え、患者と看護者両者の安全・安楽について学ぶ。</p> <p>目標：日常生活における人間の身体の動きについて分析し、安全・安楽な援助ができる基礎的知識を養う。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	看護人間工学とは 身長・体重の割合	看護人間工学とはどのようなことを学ぶのか 身長・体重に対する身体各部の割合		講義	金		
2	身体重心	身体重心を求める		演習			
3	関節の運動	各関節の運動について		講義			
4	てこ、モーメント 力	力学について いろいろな力について		講義			
5	姿勢	姿勢の安定について 支持基底面について		講義			
6	看護と人間工学	看護動作のいろいろ		講義			
7	看護と人間工学	看護作業と人間工学		講義			
8	試験(1h)						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：配布資料					
事前準備や受講要件等							

授業 科目	看護形態機能学	担当 教員	専任教員	単位数	1	時期	1年次 9月～
				時間数	15		
<p>目的：解剖生理学で学んだ知識を、生活者としての人間にあてはめ、日常生活行動の視点で、人間の体のつくりや動きを理解する。</p> <p>目標：1) どのような体の仕組みを使って、日常生活を行っているのかを説明できる。</p> <p>2) 体の仕組みが障害されたとき、生きていること、日常生活行動にどう影響するのかを考えることができる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	人体構造のイメージ化1	臓器のペインティング (頭部、頸部～呼吸器、心臓から消化器、腎泌尿器・生殖器、骨筋肉)		講義	専任教員		
2	人体構造のイメージ化2	臓器ペインティング発表会		講義			
3	何のための生活行動か 日常生活行動 食べる1	内部環境の恒常性・物質の流通・調節機構 食べることに必要な機能 食欲・食行動		講義			
4	日常生活行動 食べる2	嚥下(咀嚼・飲み込み) 消化・吸収、便を作る・便を出す		講義			
5	日常生活と体の仕組み1	動く・息をする・トイレに行く・お風呂に入る・話す聞く1 (グループワーク)		講義			
6	日常生活と体の仕組み2	動く・息をする・トイレに行く・お風呂に入る・話す聞く2 (資料作成、発表準備)		講義			
7	日常生活と体の仕組み3 (3h)	動く・息をする・トイレに行く・お風呂に入る・話す聞く3 (発表会)		講義			
評価方法		記録物、グループワークなどを総合的に評価					
参考文献と資料		テキスト：看護形態機能学 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会) 入門人体解剖学 (南江堂)					
事前準備や受講要件等		解剖学・生理学の復習をして臨むこと					

授業科目	病理学 I	担当教員	外部講師*	単位数	1	時期	1年次 5月～
				時間数	30		
目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。 目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。 2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。 3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	病理学総論 1	病理学で学ぶこと 細胞・組織の損傷と修復, 炎症			講義	外部講師	
2	病理学総論 2	免疫, 移植と再生医療			講義		
3	病理学総論 3	感染症			講義		
4	病理学総論 4	循環障害 ・ 代謝障害			講義	外部講師	
5	病理学総論 5	老化と死 ・ 先天異常と遺伝性疾患			講義		
6	病理学総論 6	腫瘍			講義	外部講師	
7	病理学総論 7	腫瘍 生活習慣と環境因子による生体の障害			講義		
8	呼吸器内科疾患 1	呼吸器の構造と機能 症状とその病態生理 1			講義		
9	呼吸器内科疾患 2	症状とその病態生理 2			講義		
10	呼吸器内科疾患 3	検査・治療・処置			講義		
11	呼吸器内科疾患 4	呼吸器感染症 1 COVID-19			講義		
12	呼吸器内科疾患 5	呼吸器感染症 2 気管支喘息 肺結核			講義		
13	呼吸器内科疾患 6	慢性閉塞性肺疾患 肺高血圧 肺塞栓症			講義		
14	呼吸器内科疾患 7	肺腫瘍 気胸			講義		
15	呼吸器外科疾患	肺の外科			講義	外部講師	
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～7 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進(1) (医学書院) 回数8～14 呼吸器 成人看護学(2) (医学書院) 回数15 臨床外科看護総論 (医学書院) 臨床外科看護各論 (医学書院)					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	病理学Ⅱ	担当 教員	外部講師*	単位数	1	時期	1年次 7月～
				時間数	30		
<p>目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。</p> <p>目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。 2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。 3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	循環器疾患 1	循環器の構造と機能 症状とその病態生理		講義	外部講師		
2	循環器疾患 2	虚血性心疾患		講義			
3	循環器疾患 3	心不全		講義			
4	循環器疾患 4	弁膜症、心筋症、心筋炎、先天性心疾患		講義			
5	循環器疾患 5	不整脈		講義			
6	循環器疾患 6	大動脈疾患、静脈疾患		講義			
7	心臓血管外科疾患 1	虚血性心疾患 動脈閉塞及び血流障害		講義	外部講師		
8	心臓血管外科疾患 2	心臓弁膜症		講義			
9	心臓血管外科疾患 3	動脈瘤 静脈の血流障害		講義			
10	運動器疾患 1	運動器の構造と機能		講義	外部講師		
11	運動器疾患 2	症状とその病態生理		講義			
12	運動器疾患 3	検査・治療・処置		講義			
13	運動器疾患 4	骨折 脱臼 骨粗鬆症		講義			
14	運動器疾患 5	腫瘍 変形性関節症		講義			
15	運動器疾患 6	脊椎疾患 骨・関節の炎症性疾患		講義			
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～6 循環器 成人看護学(3) (医学書院) 回数7～9 臨床外科看護総論 (医学書院) 臨床外科看護各論 (医学書院) 回数10～15 運動器 成人看護学(10) (医学書院)					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	病理学Ⅲ	担当 教員	外部講師*	単位数	1	時期	1年次 9月～
				時間数	30		
<p>目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。</p> <p>目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。 2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。 3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	消化器内科疾患 1	消化器の構造と機能		講義	外部講師		
2	消化器内科疾患 2	消化器症状の病態生理 検査・治療		講義			
3	消化器内科疾患 3	食道疾患 胃・十二指腸疾患		講義			
4	消化器内科疾患 4	大腸の疾患		講義			
5	消化器内科疾患 5	肝臓・胆のう・膵臓の疾患		講義			
6	消化器外科疾患 1	食道の外科		講義	外部講師		
7	消化器外科疾患 2	胃・十二指腸の外科		講義			
8	消化器外科疾患 3	腸の外科		講義			
9	消化器外科疾患 4	肝臓・胆のう・膵臓の外科		講義			
10	乳腺・頸部外科疾患 1	甲状腺外科		講義	外部講師		
11	乳腺・頸部外科疾患 2	乳腺外科		講義			
12	女性生殖器疾患 1	女性生殖器の構造と機能 子宮の疾患		講義	外部講師		
13	女性生殖器疾患 2	卵管・卵巣の疾患 月経異常・更年期障害		講義			
14	内分泌疾患 1	内分泌疾患 糖尿病 1		講義	外部講師		
15	内分泌疾患 2	糖尿病 2		講義			
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト 回数1～5 消化器 成人看護学(5) (医学書院) 回数6～11 臨床外科看護総論 (医学書院) 臨床外科看護各論 (医学書院) 回数12～13 女性生殖器 成人看護学(9) (医学書院) 回数14～15 内分泌・代謝 成人看護学(6) (医学書院)					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	病理学IV	担当 教員	外部講師*	単位数	1	時期	1年次 10月～
				時間数	30		
目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。 目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。 2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。 3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	血液造血器疾患 1	血液の生理と造血のしくみ 検査・診断・治療			講義	外部講師	
2	血液造血器疾患 2	貧血 白血球減少症 白血病			講義		
3	血液造血器疾患 3	悪性リンパ腫 多発性骨髄腫			講義		
4	脳神経内科疾患 1	脳・神経系の構造と機能 症状とその病態生理			講義	外部講師	
5	脳神経内科疾患 2	脳血管障害 感染症			講義		
6	脳神経内科疾患 3	パーキンソン症候群 筋委縮性側索硬化症 多発性硬化症			講義		
7	脳神経内科疾患 4	認知症 脊髄疾患 てんかん			講義		
8	脳神経外科疾患 1	頭蓋内圧亢進 脳ヘルニア 検査・診断・治療			講義	外部講師	
9	脳神経外科疾患 2	脳血管障害			講義		
10	脳神経外科疾患 3	脳腫瘍 頭部外傷 水頭症			講義		
11	腎臓内科疾患 1	腎の構造と機能 電解質 排尿トラブル 尿・腎の検査			講義	外部講師	
12	腎臓内科疾患 2	急性腎障害と慢性腎臓病 腎不全 透析と腎移植			講義		
13	腎臓内科疾患 3	ネフローゼ症候群 糸球体腎炎			講義		
14	泌尿器疾患 1	泌尿器の構造と機能 症状と病態生理 検査・治療・処置			講義	外部講師	
15	泌尿器疾患 2	前立腺癌 腎腫瘍 膀胱癌 腎・尿路結石			講義	外部講師	
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～3 血液・造血器 成人看護学(4) (医学書院) 回数4～7 脳・神経 成人看護学(7) (医学書院) 回数8～10 脳・神経 成人看護学(7) (医学書院) 臨床外科看護各論 (医学書院) 回数11～15 腎臓・泌尿器 成人看護学(8) (医学書院)					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	病理学V	担当 教員	外部講師*	単位数	1	時期	1年次
				時間数	30		11月～
目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。 目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。 2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。 3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	免疫・アレルギー疾患1	アレルギー疾患		講義	外部講師		
2	免疫・アレルギー疾患2	自己免疫疾患		講義			
3	皮膚科疾患	皮膚の構造と機能 症状と病態生理 検査・治療・処置 アトピー性皮膚炎 帯状疱疹 熱傷		講義	外部講師		
4	眼科疾患1	目の構造と機能 症状と病態生理 治療・処置		講義	外部講師		
5	眼科疾患2	白内障 緑内障 網膜剥離 網膜症		講義			
6	耳鼻科疾患1	耳と鼻の構造と機能 症状と病態生理 検査・治療・処置 顔面神経麻痺		講義	外部講師		
7	耳鼻科疾患2	外耳・中耳・内耳の疾患 メニエール病 鼻・咽頭・喉頭・唾液腺疾患		講義			
8	歯・口腔の疾患1	歯と口腔の構造と機能 症状と病態生理 検査・治療・処置		講義	外部講師		
9	歯・口腔の疾患2	口腔粘膜疾患 顎骨の骨折 顎関節症 腫瘍 先天異常		講義			
10	麻酔	麻酔の種類、術前・術中・術後管理		講義	外部講師		
11	手術侵襲と管理	手術侵襲と生体反応		講義			
12	救急処置1	主要病態に対する救急処置1		講義	外部講師		
13	救急処置2	主要病態に対する救急処置2 全身の観察		講義			
14	救急患者の観察	各系統別の観察とアセスメント		講義	外部講師		
15	医療用器具の原理と実際	人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ		講義	外部講師		
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト 回数1～2 アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学(11) (医学書院) 回数3 皮膚 成人看護学 (12) (医学書院) 回数4～5 眼 成人看護学 (13) (医学書院) 回数6～7 耳鼻咽喉成人看護学 (14) (医学書院) 回数8～9 歯・口腔 成人看護学 (15) (医学書院) 回数10～14 臨床外科看護総論 (医学書院) 救急看護学 (医学書院) 回数15 臨床看護総論 基礎看護学 (4) (医学書院)					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	微生物学	担当 教員	外部講師 末松 寛之*	単位数	1	時期	1 年次 1 0 月～
				時間数	30		
<p>目的：微生物学の体系的な基礎知識を学び、人体に及ぼす影響および対応できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標：1) 微生物学の特徴を理解する。</p> <p>2) 感染症について学び、その予防対策を理解する。</p> <p>3) 免疫の種類と疾患について理解する。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	ヒトと感染症	感染症とは、治療、検査・診断のあゆみ		講義	末松		
2	感染・感染症の機構	感染症の成立と経過、感染症の種類		講義			
3	感染・感染症の種類	感染源と感染経路、感染因子、感染症の種類		講義			
4	免疫と生体防御機構	免疫とその種類、細胞性・液性免疫、抗原抗体反応		講義			
5	免疫と生体防御機構	移植・輸血と免疫、免疫異常		講義			
6	感染症の予防と 感染制御対策・技術	滅菌と消毒、予防接種		講義			
7	感染症の予防と 感染制御対策・技術	院内感染予防対策 法律による感染症対策		講義			
8	細菌感染症 1	細菌の形態・構造と分類 細菌感染症の治療と予防		講義			
9	細菌感染症 2	主な病原細菌と疾患		講義			
10	細菌感染症 3	主な病原細菌と疾患		講義			
11	細菌感染症 4	主な病原細菌と疾患		講義			
12	ウイルス感染症 1	ウイルスの病原性、検査・診断		講義			
13	ウイルス感染症 2	主な病原ウイルスと疾患 主な病原真菌と疾患、原虫、衛生動物		講義			
14	まとめ			講義			
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験、授業の出席状況、態度を総合的に評価					
参考文献と資料		テキスト：わかる！身につく！病原体・感染・免疫（南山堂）					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	薬理学	担当 教員	外部講師 宮部 芳之 *	単位数	1	時期	1年次 9月～
				時間数	30		
目的：薬の作用を理解し、人に及ぼす影響を学び、臨床に役立てる。 目標：1) 薬理学とは何か理解する。 2) 薬の特徴と作用から生体への反応を理解する。 3) 薬の管理について学ぶ。 4) 薬物療法における看護師の役割を学ぶ。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	薬理学概要	薬による病気の治療のメカニズム			講義	宮部	
2	薬の作用機序 1	薬の作用機序、薬物療法時の看護師の役割 薬の作用と投与経路			講義		
3	薬の作用機序 2	薬の体内動態、小児・高齢者への影響 薬効に影響する因子、薬の相互作用			講義		
4	薬の作用機序 3	薬物中毒のしくみ、医薬品の法的規制			講義		
5	薬の作用機序 4	新薬の開発、感染症と抗菌剤のしくみ			講義		
6	抗生物質・感染対策	抗生物質の使い方と有害作用 特殊な感染症とその対応、院内感染対策			講義		
7	治療に関する薬物 1	がん治療薬 化学療法、副作用対策 免疫抑制剤、増強剤とその適応			講義		
8	治療に関する薬物 2	抗アレルギー薬、炎症、リウマチ、痛風に作用する薬 末梢神経作用薬、神経作用の増強、抑制薬			講義		
9	治療に関する薬物 3	中枢神経作用薬、麻酔、精神病に用いる薬、高血圧 メタボリックシンドロームと心血管疾患、狭心症治療薬			講義		
10	治療に関する薬物 4	心不全、不整脈、利尿薬、高脂血症の治療と薬物			講義		
11	治療に関する薬物 5	貧血治療薬、抗血液凝固薬、気管支喘息治療薬			講義		
12	治療に関する薬物 6	消化器、生殖器、糖尿病治療薬、生活改善薬			講義		
13	治療に関する薬物 7	甲状腺、下垂体と骨粗鬆症治療薬、皮膚科、眼科治療薬			講義		
14	治療に関する薬物 8	救急医療に使われる薬剤、消毒薬、漢方薬			講義		
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進（3）（医学書院）					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	臨床薬理学	担当 教員	外部講師 専任教員	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		
<p>目的：薬理学で学んだ知識を基に、薬物療法が安全に実施できるための看護の役割を理解する。</p> <p>目標：1) 薬物療法における生活調整・回復力の促進、服薬管理能力の向上のための看護に必要な知識を学ぶ。 2) 薬物に関する安全管理の実際について理解する。 3) 薬剤使用時のアセスメントや判断、投与後の患者のモニタリングについて考える。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	薬物療法における役割	薬物療法における看護師の役割 医薬品の取り扱い 薬物の相互作用とハイリスク患者 薬物治療の評価		講義	専任教員		
2	薬物治療の基礎	医薬品の取り扱い 薬物治療の実際		講義	外部講師		
3	安全管理	病院で起こりやすいインシデント 特にリスクの高い医療品 外来・在宅での安全管理		講義			
4	がん患者の薬物療法	がん性疼痛に対する薬物療法 麻薬とレスキューの使用		講義	外部講師		
5	救急時の薬物療法	救急時に使用される医薬品と注意点及び管理方法		講義	外部講師		
6	病態に応じた薬物治療 1	薬物投与の実際 1		講義 演習	専任教員		
7	病態に応じた薬物治療 2	薬物投与の実際 2		演習			
8	試験(1h)						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		<p>テキスト：</p> <p>回数1～7 臨床薬理学 (医学書院)</p> <p>回数4 がん看護学 (医学書院)</p> <p>回数5 救急看護学 (医学書院)</p>					
事前準備や受講要件等		薬理学の復習をして臨むこと					

授業科目	栄養学	担当 教員	外部講師 *	単位数	1	時期	2年次 9月～
				時間数	30		
<p>目的：生体の生命活動や健康に関与する事柄を栄養面から学び、疾患の種類や状態によって、必要な食事療法を理解し、看護実践における栄養学的な知識を習得する。</p> <p>目標：1) 栄養素の種類と働きについて理解する。 2) エネルギー代謝と栄養素の体内代謝について理解する。 3) 栄養状態の評価・判定の目的とその方法について学ぶ。 4) ライフサイクルにおける栄養の重要性を理解する。 5) 治療食の種類と目的を理解し、治療食に合わせた食材選びと調理方法を体験し、試食することで健康な人の食事との違いを学ぶ。</p>							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	栄養素の種類と働き 1	糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル			講義	外部講師	
2	栄養素の種類と働き 2	食物繊維、水、食物の消化、栄養素の吸収			講義		
3	エネルギー代謝 基礎代謝量	食品のエネルギー・体内エネルギー エネルギー代謝の測定、エネルギー消費			講義		
4	代謝	血漿成分と栄養素、栄養素の代謝、肝臓の働き 核酸代謝、ポルフィリン代謝、吸収・代謝産物の排泄			講義	外部講師	
5	人間栄養学と看護 栄養ケア・マネジメント	栄養を学ぶということ、保健医療における栄養学、看護と栄養 チームアプローチと栄養ケア・マネジメント、栄養スクリーニング 栄養アセスメント、栄養ケア計画、計画の実施と確認 栄養ケア・マネジメントの評価、計測実習			講義		
6	栄養状態の評価・判定	栄養状態の評価・判定、計測実習			講義		
7	食事と食品	人間の食事と食文化、日本人の食事摂取基準 食品と栄養素、食品群とその分類方法、食品の調理			講義	外部講師	
8	健康づくりと食生活	食生活の変遷と栄養の問題点 食生活の改善への施策、食の安全性と表示			講義		
9	ライフステージと栄養	乳幼児期、幼児期、学童期、思春期・青年期、成人期 妊娠期、授乳期、更年期、高齢期			講義		
10	臨床栄養 1	チームで取り組む栄養管理、栄養補給法 病院食、経腸栄養製品、静脈栄養剤			講義	外部講師	
11	臨床栄養 2	疾患・症状別食事療法の実際 1 (循環器疾患、消化器疾患、栄養・代謝疾患)			講義		
12	臨床栄養 3	疾患・症状別食事療法の実際 2 (腎臓疾患、血液疾患、食物アレルギー疾患、骨粗鬆症患者 咀嚼・嚥下障害患者)、場面別の栄養管理、がんの食事療法			講義		
13	調理演習 1	病院治療食演習 1			演習	外部講師	
14	調理演習 2	病院治療食演習 2			演習		
15	まとめ・試験					外部講師	
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 栄養学 人体の構造と機能 (3) (医学書院)					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	社会福祉	担当 教員	外部講師 千葉忠道	単位数	2	時期	2年次 9月～
				時間数	45		
<p>目的：社会福祉の概念や歴史の変遷、現在の社会福祉関係法制度・理念を学習するとともに、福祉サービスを必要とする人の福祉ニーズを当事者の視点から理解し、支援に繋げる力を養う。また、看護専門職として、保健・医療・福祉など多機関・多職種連携の実践ができるような社会保障・社会福祉の実践的知識を学ぶ。</p> <p>目標：1) 生活問題・課題を抱える人の福祉ニーズを当事者の視点から理解できるようになる。 2) 看護師としての実践に応用できるような社会保障・社会福祉の法制度・サービスの知識を獲得する。 3) ソーシャルワークの知識や社会福祉関係専門機関・専門職などの役割を理解する。 4) 看護専門職として、保健・医療・福祉の多機関・多職種連携の実践ができるようになる。</p>							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	福祉制度・福祉政策	福祉制度・政策の意義と理念、人口統計・動態、地域生活課題			講義	千葉	
2	社会福祉の歴史	西欧の歴史、日本の歴史、現代社会における生活問題・福祉課題、福祉政策、今後の社会福祉についての理解			講義		
3	社会福祉の法制度	社会福祉法、福祉六法、福祉行財政の理解、事例検討			講義		
4	社会福祉の組織と実施体制	社会福祉行政、社会福祉協議会、社会福祉法人等の組織・機関と専門職・従事者の役割の理解、事例検討			講義		
5	社会保障 I	社会保障制度の体系、社会保障の財源と費用、社会保障制度改革、諸外国における社会保障制度の概要			講義		
6	社会保障 II	医療保険制度、年金保険制度の具体的概要			講義		
7	社会保障 III	雇用保険制度、労災保険制度の具体的概要、事例検討			講義 演習		
8	社会保障 IV	社会保障制度を理解するための事例(ピネット)			講義 演習		
9	生活保護制度と生活困窮者支援 I	生活保護の動向、生活保護法の概要、基本原理、原則 生活保護の種類と方法、生活保護基準			講義		
10	生活保護制度と生活困窮者支援 II	被保護者の権利と義務、実施機関、実施過程、生活困窮者自立支援法の概要、生活福祉資金貸付制度、事例検討			講義		
11	高齢者福祉と介護保険制度 I	高齢者福祉制度の発展過程、高齢者の生活実態と課題、老人福祉法、高齢者虐待防止法、介護保険法の概要①			講義		
12	高齢者福祉と介護保険制度 II	介護保険法の概要②、介護保険サービスの種類、介護支援専門員等専門職の役割、連携の方法、地域包括支援センターの役割、事例検討			講義		
13	障害者福祉 I	障害者の定義と状況、障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、障害者総合支援法			講義		
14	障害者福祉 II	発達障害者支援法、障害者雇用促進法、障害者差別解消法 障害者虐待防止法、事例検討			講義		
15	児童家庭福祉 I	児童福祉法、障害児に対する支援、児童福祉施設や児童相談所の役割、子ども・子育て支援法			講義		
16	児童家庭福祉 II	児童虐待防止法、DV防止法、母子保健法、事例検討			講義		
17	ソーシャルワークの理論と方法 I	自己理解、他者理解、面接技術、受容、共感、傾聴、マッピング技法(ジェノグラム、エコマップ)、ケアマネジメント			講義 演習		
18	ソーシャルワークの理論と方法 II	グループワークの理論と実践、展開過程、セルフヘルプグループ、ジェネラリスト・ソーシャルワーク、事例検討			講義 演習		
19	地域福祉の理論と方法	地域福祉の理念、推進方法、地域福祉事例検討			講義		
20	地域包括ケアシステム、地域共生社会の構築	地域包括ケアシステム、地域共生社会の実現、包括的・重層的支援体制の構築			講義		
21	事例検討 I	ソーシャルワーク事例検討(各種課題別事例 I)			講義 演習		
22	事例検討 II	ソーシャルワーク事例検討(各種課題別事例 II)、まとめ			講義 演習		
23	試験						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		<p>テキスト：社会福祉と社会保障 健康支援と社会保障③ (メディカ出版)</p> <p>参考文献：厚生労働白書 (厚生労働省編) 国民の福祉と介護の動向 (厚生労働統計協会編) 社会福祉六法 (ミネルヴァ書房)</p>					
事前準備や受講要件等		<p>①日常的に社会福祉に関する情報に関心を持ち、常に問題意識を持つこと</p> <p>②随時最新の参考資料を配付するので、分類・整理・保存し、必ず復習すること</p> <p>③積極的な自己学習と、受講に対する真摯な姿勢を望む</p>					

授業 科目	関係法規	担当 教員	外部講師 宮坂 果麻理	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		
<p>目的：看護に関する法の基礎的知識を学ぶ。</p> <p>目標：1) 保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を理解する。 2) 看護師の法的責任について学び、専門職としての自覚がもてる。 3) 対象に必要な法の活用ができる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	関係法規総論	法規の概念と体系、衛生法規と厚生行政		講義	宮坂		
2	医療関係者の法規	保健師助産師看護師法、医師法		講義			
3	医療施設に関する法規	医療法		講義			
4	薬事法規	薬事法、麻薬及び向精神薬取締法		講義			
5	保健衛生・予防衛生法規	地域保健法、感染症予防法		講義			
6	福祉関係法規	健康保険法、介護保険法		講義			
7	医療事故	医療事故の意義、3つの法的責任		講義			
8	試験（1h）						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：看護関係法規 看護職の責任と法的根拠を学ぶ（南江堂）					
事前準備や受講要件等							

授業 科目	公衆衛生学	担当 教員	外部講師 田中 耕 道林千賀子	単位数	1	時期	2年次 9月～			
				時間数	30					
<p>目的：公衆衛生の概念を学び、人々の疾病予防と健康保持増進のための保健活動を学ぶ。</p> <p>目標：1) 公衆衛生にかかわる基礎的な概念を学ぶ。</p> <p>2) 公衆衛生活動における疫学的統計手法や健康指標のとらえ方を学ぶ。</p> <p>3) 疾病予防と健康保持増進のための保健活動の実際を学ぶ。</p>										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員					
1	健康と公衆衛生	公衆衛生の概念 公衆衛生の領域、活動の特徴 健康の概念、予防の概念		講義	外部講師					
2	健康と環境	生活習慣と健康の関連 感染症とその予防		講義	外部講師					
3	健康と環境、疫学的方法1	健康の多要因 疫学的方法による健康の理解		講義	田中					
4	健康と環境、疫学的方法2	集団の健康被害の理解 健康被害と母集団、危険度 薬害		講義						
5	健康と環境、疫学的方法3	疫学的因果関係 疫学の考え方 疫学の方法		講義						
6	健康と環境、疫学的方法4	疫学的因果関係の推定 臨床疫学とエビデンス		講義						
7	健康の指標	健康に関連した指標 健康状態と受療状況		講義						
8	生活環境の保全	地球環境 食品管理		講義						
9	公衆衛生の対象と保健活動1	母子保健 学校保健		講義				道林		
10	公衆衛生の対象と保健活動2	難病		講義						
11	公衆衛生の対象と保健活動3	精神保健福祉・結核		講義						
12	公衆衛生の対象と保健活動4	地域保健活動、地域保健法の理念と指針		講義						
13	公衆衛生の対象と保健活動5	産業保健		講義						
14	公衆衛生の対象と保健活動6	生活習慣病・健康教育とヘルスプロモーション		講義						
15	まとめ・試験									
評価方法		回数3～15 筆記試験								
参考文献と資料		<p>テキスト：</p> <p>回数1～14 わかりやすい公衆衛生学 (ヌーヴェル ヒロカワ)</p> <p>国民衛生の動向 (厚生統計協会)</p> <p>回数9～14 公衆衛生マニュアル (南山堂)</p>								
事前準備や受講要件等										

授業 科目	保健医療論	担当 教員	外部講師 *	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		
<p>目的：現代医療の全体像を描き、保健・医療実践の課題を学ぶ。</p> <p>目標：1) 保健・医療の対象である人の生命・健康・病みについて理解する。</p> <p>2) 生活と保健・医療の関係を理解する。</p> <p>3) 先端医療技術を学ぶと共に、倫理的問題を理解する。</p> <p>4) 医療の現場における患者の権利と医療者の責務について理解する。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	医療と看護の原点	命と健康		講義	外部講師		
2	私達の生活と医療 1	病気や怪我をしたら		講義			
3	私達の生活と医療 2	病気や怪我をしたら		講義			
4	技術社会の高度化 1	先端医療の問題点		講義			
5	技術社会の高度化 2	現代医療の落とし穴・倫理上のジレンマ		講義			
6	成熟する社会と人々の意識改革	インフォームドコンセントと医療開示		講義			
7	生命倫理	エイズ・安楽死		講義			
8	まとめ(1h)			講義			
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト：総合医療論 (医学書院)					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	地域保健活動論	担当 教員	外部講師 植松 勝子*	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		
<p>目的：個人や家族、特定集団より構成される地域全体を視野におき、各々のセルフケア能力の向上、 家族・地域の力量を高めるコミュニティケアの実際を知る。</p> <p>目標：1) 地域に存在する健康問題への支援方法を学ぶ。 2) 対象集団や関係機関の人々と連携し協働し、健康問題を解決するケアやサービスを知る。 3) 地域に存在する社会資源の活用と新たな社会資源開発を知る。 4) 地域で生活する人々が自分の生活と健康の関係を認識し、主体的に取り組みができるよう 支援できる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	地域看護とは 地域看護の理念	地域看護の理念・公衆衛生の理念		講義	植松		
2	地域看護活動の歴史	日本における地域看護の歴史		講義			
3	地域看護の対象	対象としての個人・家族・グループ・組織・地域		講義			
4	地域看護の場	行政機関・職種・学校・医療機関・社会福祉施設 ・国際		講義			
5	社会環境の変化と 健康問題	社会情勢の変化		講義			
6	地域看護活動の展開	健康と生活・理論および展開方法 地域看護活動の方法		講義			
7	活動の計画・実践・評価 地域看護管理	地域看護活動の展開における地域診断 地域看護活動に関する法令		講義			
8	試験（1h）						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 公衆衛生看護学概論 （医学書院）					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員